

当院で経皮的冠動脈形成術を受けられた患者さまへ

当院では以下の臨床研究を実施しております。この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない方は下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

【研究課題名】 Imaging 所見観察におけるデバイス選択基準の傾向を観察する研究

【対象となる方】2021年10月1日から2021年12月31日までに当院にて経皮的冠動脈形成術を受けられた方で、Imaging デバイス使用後に、Rotablator もしくは Wolverine を用いて前処置し SYNERGY ステントを留置した患者さま

【当院の研究責任者】製鉄記念八幡病院 循環器内科部長、循環器・高血圧センター 竹本 真生

【研究の目的】「ロータブレータ/ロータブレータ PRO」及び「ウルヴァリン コロナリー カuttingバルーン」及び「シナジー ステントシステム」は、狭くなった冠動脈に入れ血管を拡げておくために使用される医療機器です。

ステント留置前に病変部を「ロータブレータ/ロータブレータ PRO」や「ウルヴァリン コロナリー カuttingバルーン」によって前処置を行うことで、良好なステント拡張が期待されます。この観察研究では、多くの患者さんに使用された際の情報を収集することによって、その病変背景因子（病変長、石灰化等）及びステント拡張有効性を観察・評価し、必要に応じて研究成果として学術誌や学会にて発表することで該当医療機器のより良い使用の推進を図ることを目的としています。この研究では実際の治療に使用された際の情報を集めるものですので、患者さまに特別に行っていただくことはありません。

【利用する診療情報】 病変の部位や状態、前処置の実施情報、使用したバルーンについて、SYNERGY ステント留置についての治療情報等

【個人情報の取り扱い】この研究を行うにあたり、個人を直接特定できる情報は使用されません。得られた情報はこの調査を依頼している会社に報告されます。いかなる場合であってもあなたの名前などの個人情報は判らないようにし、患者さまのプライバシーの保護に努めます。また「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施します。

【お問合せ先】製鉄記念八幡病院 循環器内科部長、循環器・高血圧センター 竹本 真生
電話 093-671-9302

【共同研究機関】 ボストン・サイエンテフィックジャパン株式会社